

平成 26 年度 実習におけるハラスメントの実態に関するアンケート調査結果

2016. 4. 15. 発表

2・3・4年次学生および別科学生の実習中におけるハラスメント経験の実態を把握すること、および実習前に行ったハラスメントに関するオリエンテーションに対する評価と今後の要望を把握するためにアンケート調査を行った。

アンケート配布日は2年次は平成26年12月9日（Aクラス）と12月11日（Bクラス）、4年次は12月10日、別科は12月19日、3年次は平成27年2月26日であった。

結果、2年次58名、3年次50名、4年次27名、別科2名、合計137名から回答を得た。回収率は56.6%であった（表1参照）。

H26年度の実習直前のハラスメントに関するオリエンテーションは、2年次が9月22日の「実習Ⅰ全体オリエンテーション」において、3年次が9月25日の「実習Ⅱの全体オリエンテーション」において実施し、実習中に起こりがちなハラスメント例と対処法について渡久山委員が説明した。

ハラスメント経験の実態

女子学生4名がハラスメントがあったと答えた。それらの「状況の記述」から、そのうち1例は患者から受けたセクシャルハラスメントであった。もう1例は実習施設職員の指導上の言動であり、ハラスメントの範疇ではなかった。これらの2例は実習中の出来事であったにもかかわらず、担当教員ではなく友人や同じ実習グループの学生にしか伝えていなかった。この点について今後、検討する必要がある。

残りの2例は実習指導上の教員の態度および話し方への不満であり、ハラスメントとは認めにくいものであった。

オリエンテーションに対する評価

オリエンテーションを受けたことを覚えていた者は84.7%、覚えていない者が10.9%であった（表3参照）。また、オリエンテーション内容は役立ったかの問いに対し78.8%の学生が役立った、13.9%が役立たなかったと答えた（表4参照）。これはハラスメントと感じた場面を経験していないため、「役立たなかった」と回答している学生が含まれている可能性もあり、次回のアンケートでは選択肢を改善する必要がある。いずれにしろ、前回のアンケート結果よりも後退した数値になっているため、今後、さらにていねいなオリエンテーションを実施する必要がある。

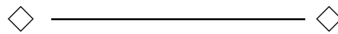
今後の要望

学生からの大学への要望についての記述（表5）は少なかった。現在のハラスメント防止体制の維持で良いことが示唆されていると思われる。毎回、年度始めに学生全員に配布しているパンフレットに記述されているハラスメントの内容、相談窓口の周知率をさらに向上させ、事が起こった時にスムーズに相談につながるようにしていく必要がある。また、実習指導における教員のコミュニケーション能力向上や学生への態度の改善を図り、必要な実習指導がハラスメントと誤解されることを防ぐためにFDを進めていく必要がある。

【大学としての改善点】

今回のアンケート結果を受けて、本学は下記の点について改善の努力をいたします。

1. どのようなことがハラスメントにあたるのか、学生たちが理解しやすいように説明する。
2. オリエンテーションの内容を、学生たちの記憶に残りやすいように工夫する。
3. ハラスメントに関するアンケート調査の質問や選択肢をさらに工夫し、実態が把握しやすいように作成し、実施する。また、回収方法も工夫する。
4. ハラスメント相談窓口の周知率を向上させる。
5. 実習指導における教員のコミュニケーション能力向上や、学生への態度の改善をねらいとした教員研修を実施する。



【平成 27 年度に取り組んだ事柄】

1. 学部・大学院・別科助産の新学期オリエンテーション時に時間を確保し、パンフレットを配布し、ハラスメントの基本的知識および相談方法を周知した。
2. 臨地実習前のオリエンテーションで、学生自身の人権・人格の擁護と対応に特化した講話を行った。
3. 教職員を対象に、アカデミックハラスメント・パワーハラスメントについて、4～5人のグループ演習を実施した。
4. ハラスメント相談員とスクールカウンセラー全員が出席し、ハラスメント相談ガイドラインや学内の状況などについて研修会を開いた。
5. ハラスメント相談員や相談方法等について紹介した、名刺大のカードを作成し、各トイレに設置した。
6. 複数の掲示板に、ハラスメント相談員とスクールカウンセラーの氏名と顔写真を掲示した。スクールカウンセラーの毎月の来学日も掲示した。

ハラスメント防止委員会

表 1 対象

対象	配布数	回収数	(男)	回収率 (%)
2年次	76	58	(9)	76.3
3年次	75	50	(6)	66.7
4年次	73	27	(6)	37.0
別科	18	2		11.1
合計	242	137	(21)	56.6

表 2 ハラスメントと感じた場面の有無

対象	n	ハラスメントと感じた場面			
		あり (名)	%	なし (名)	%
2年次	58	1	1.7	57	98.3
3年次	50	3	6.0	47	94.0
4年次	27	0	0.0	27	100.0
別科	2	0	0.0	2	100.0
合計	137	4	2.9	133	97.1

表 3 説明の記憶の有無

対象	n	説明を覚えている				回答なし (名)	%
		はい (名)	%	いいえ (名)	%		
2年次	58	50	86.2	7	12.1	1	1.7
3年次	50	42	84.0	3	6.0	5	10.0
4年次	27	23	85.2	4	14.8	0	0.0
別科	2	1	50.0	1	50.0	0	0.0
合計	137	116	84.7	15	10.9	6	4.4

表 4 説明は役立ったか否か

対象	n	説明は役立った				回答なし (名)	%
		はい (名)	%	いいえ (名)	%		
2年次	58	48	82.8	9	15.5	1	1.7
3年次	50	38	76.0	4	8.0	8	16.0
4年次	27	21	77.8	5	18.5	1	3.7
別科	2	1	50.0	1	50.0	0	0.0
合計	137	108	78.8	19	13.9	10	7.3

表 5 ハラスメント防止に関して大学への要望 (自由記述)

2年次	(実習中の看護ケアで) 学生のできることと、できないことを施設と確認してほしいと思った。
	どこからが相談していいことか分からない、行きにくそう。
	トイレにハラスメントに対する案内?があるのは良いと思った! (個室だから人の目を気にせず、手に取ることができるから)
	これからも防止につとめてほしい。
3年次	大学の教員は、あくまで学生全員に平等に接してほしいです。
	実習ではないが、選択科目の日程を突然1年生に降ろしたり、語学選択を自由に選べなくするような方法に勝手に変更すること自体、ハラスメントであると思います。
4年次	このような場面のことですよ〜という場面 (考えられるもの) と対応を掲示しておくことで、けいもうできると思います。